

経営比較分析表（令和5年度決算）

岡山県鏡野町 国保病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	訓	救 へ 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
12,265	5,062	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
48	40	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	88
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
45	26	71

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

へき地医療拠点病院として、鏡野町内3か所の診療所にそれぞれ2～3日程度当院医師4名・看護師1名を派遣し、へき地医療の安定を図っている。また、2次救急病院として夜間・休日問わず救急患者の受け入れを行っている。そのほか町で行われる乳児健診、乳がん検診、新型コロナウイルスワクチンの集団接種等に医師・看護師を派遣している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

医師数は常勤9名体制で安定した医療が提供できた。コロナウイルス感染症の影響が減少したことと、令和元年から地域包括ケア病床への一部転換により入院患者数の増加が図れ入院収益は増加した。外来収益は小児科・耳鼻咽喉科の縮小により減収となった。また経費削減抑制対策として、引き続き専門の購買責任者による医薬品や診療材料等のコスト削減を図っている。

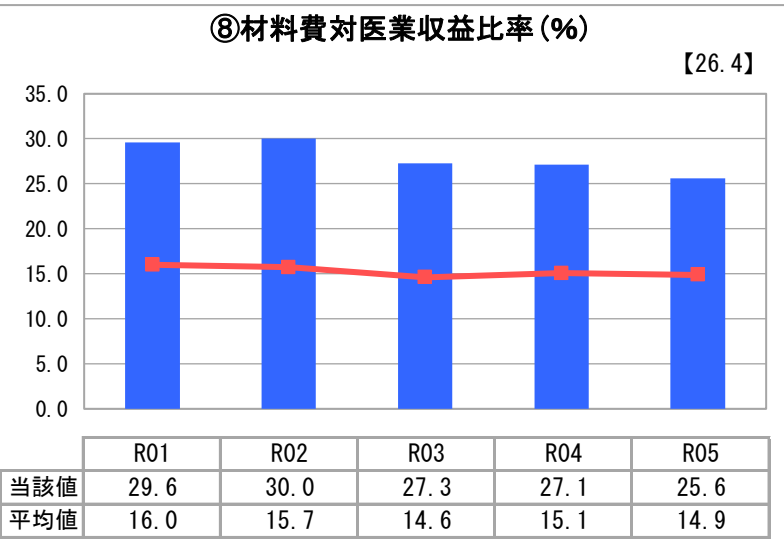
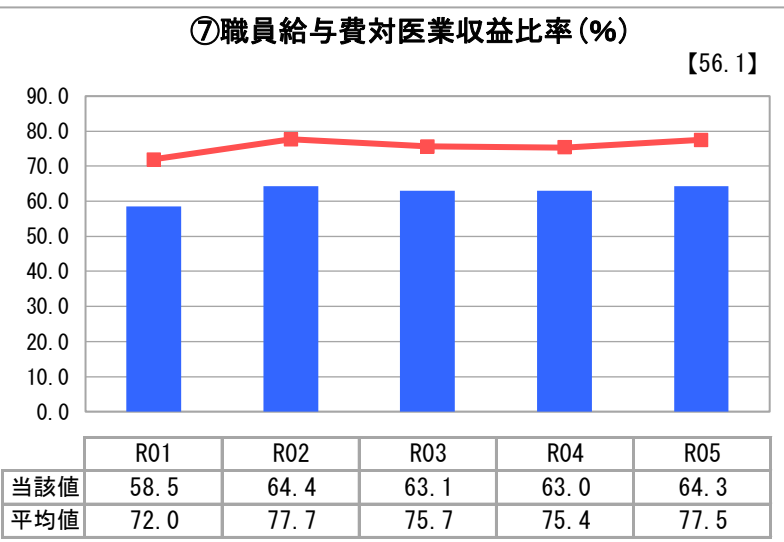
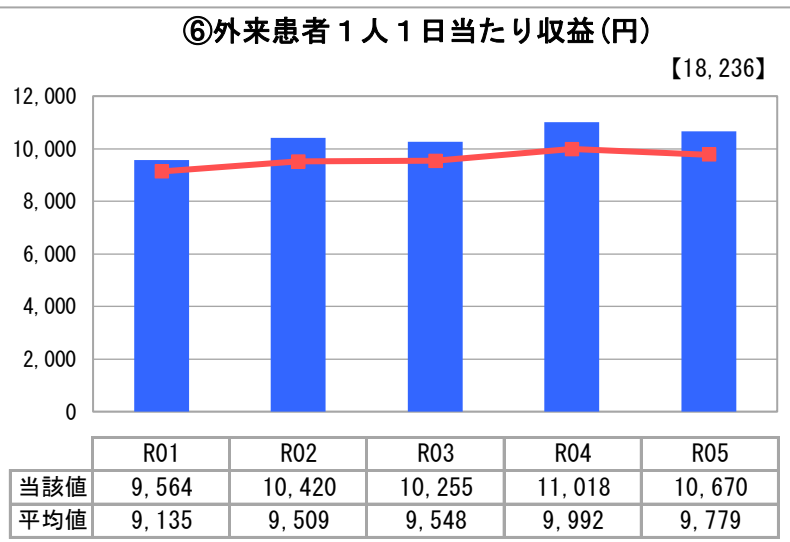
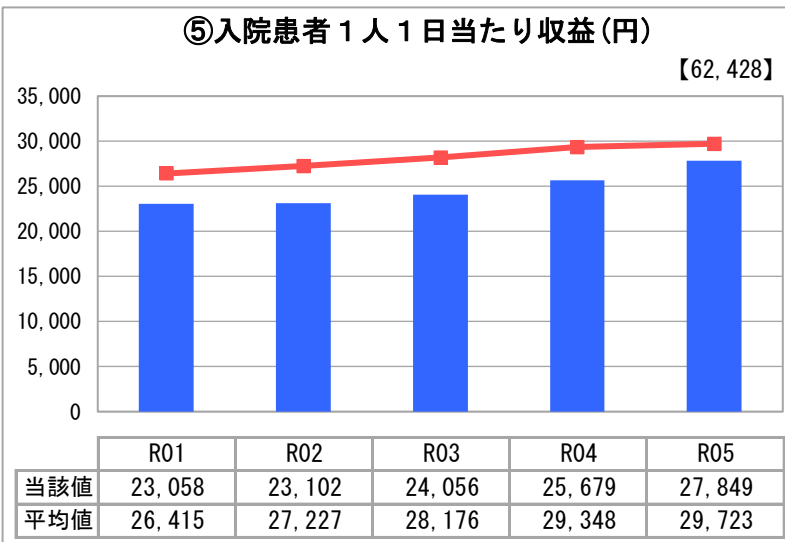
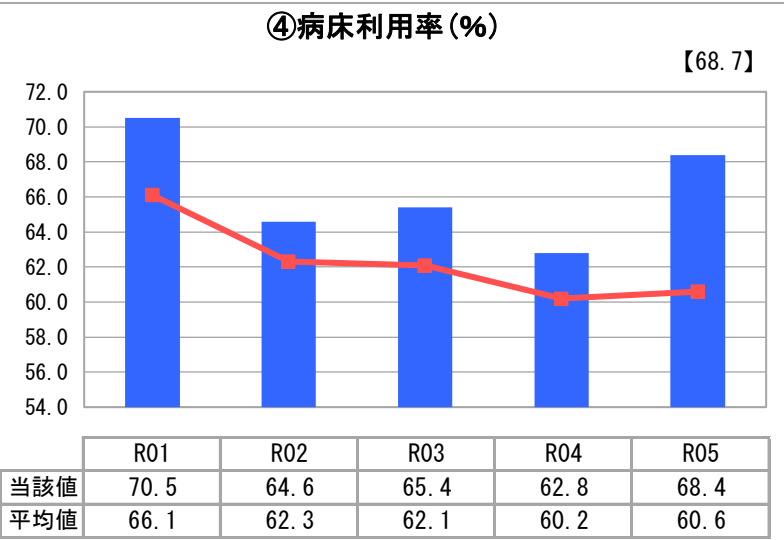
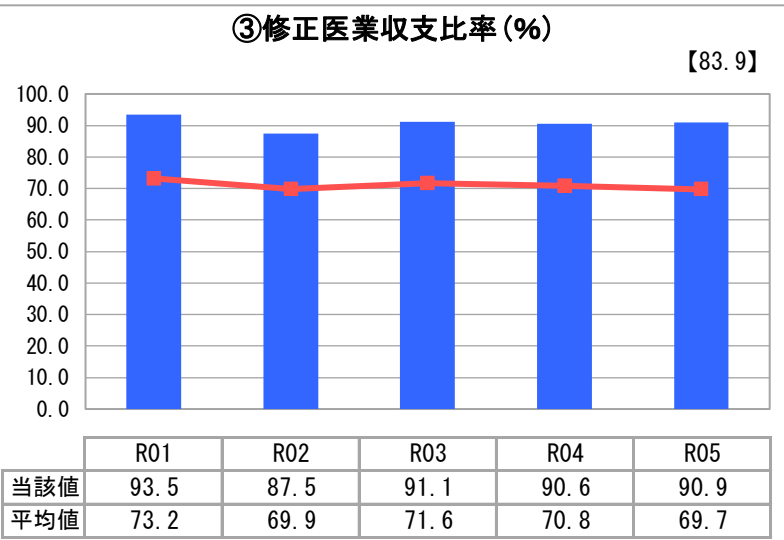
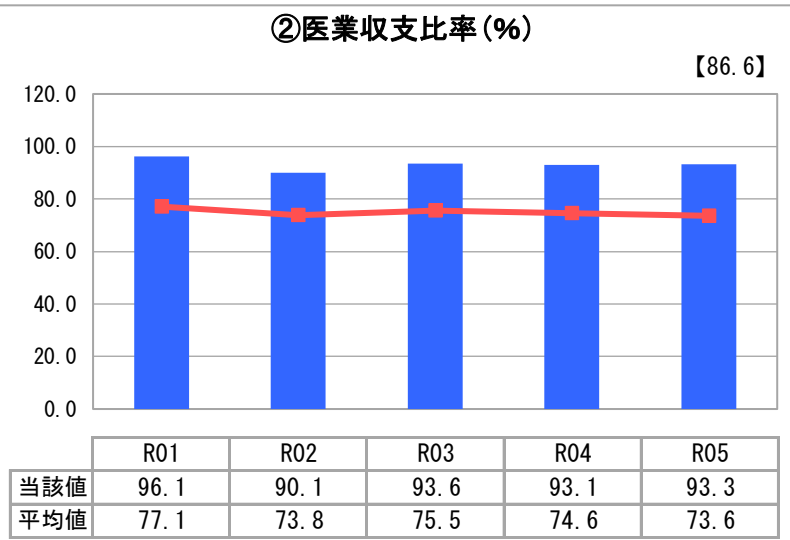
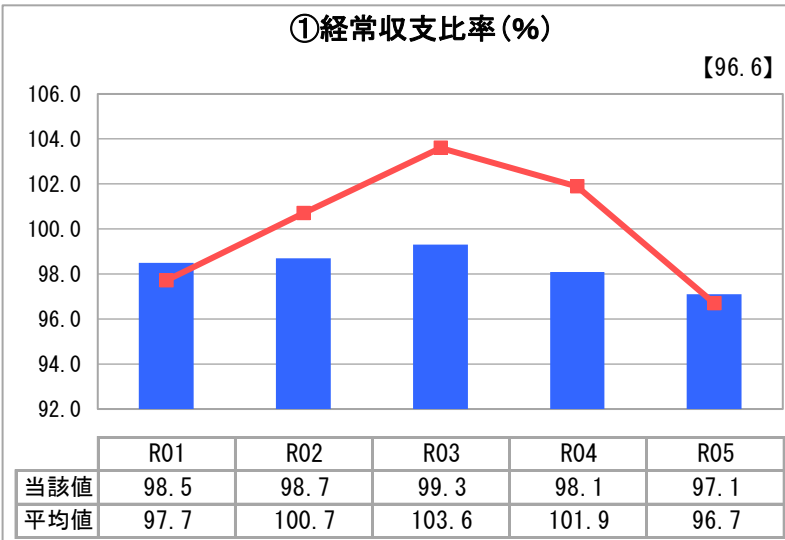
2. 老朽化の状況について

空調設備や給湯設備等の老朽化が進み、年間度々の空調機修理や配管補修を行い500万程度の修繕料となっている。10月からは施設設備管理者による早急な対応を行っている。医療機器等の器械及び備品については、X線骨密度測定装置、心電図検査装置等を耐用年数経過により更新した。

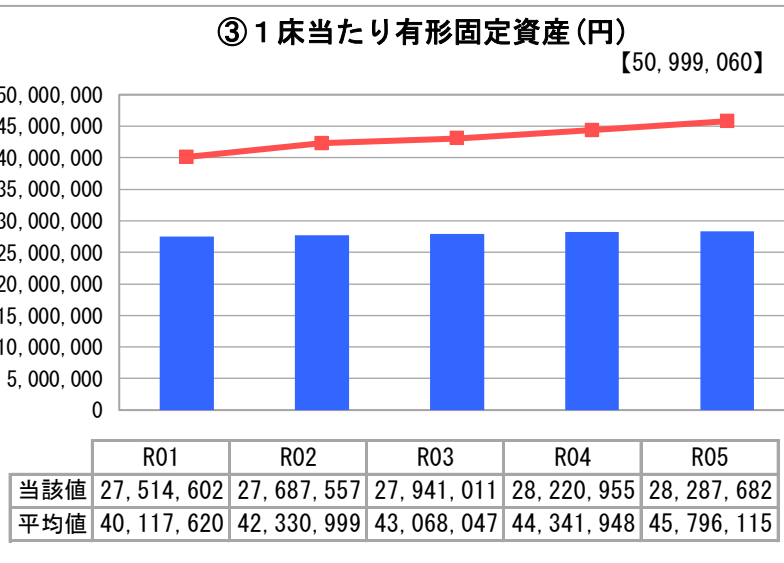
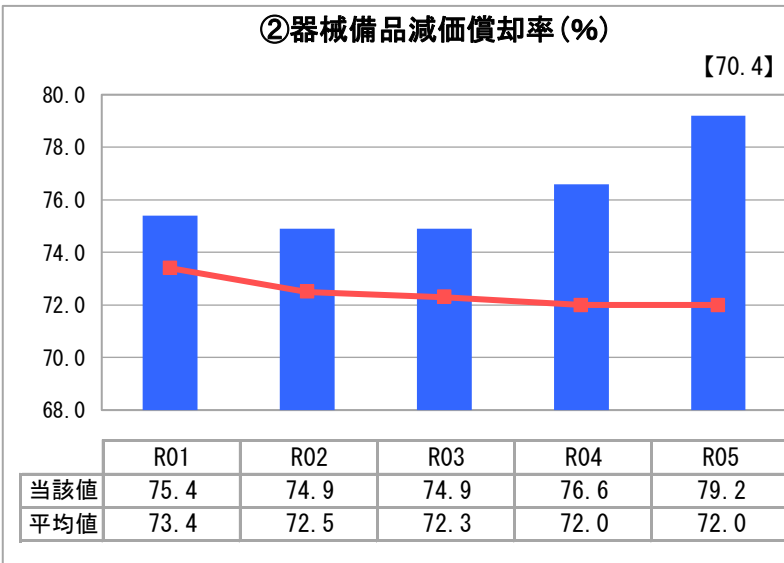
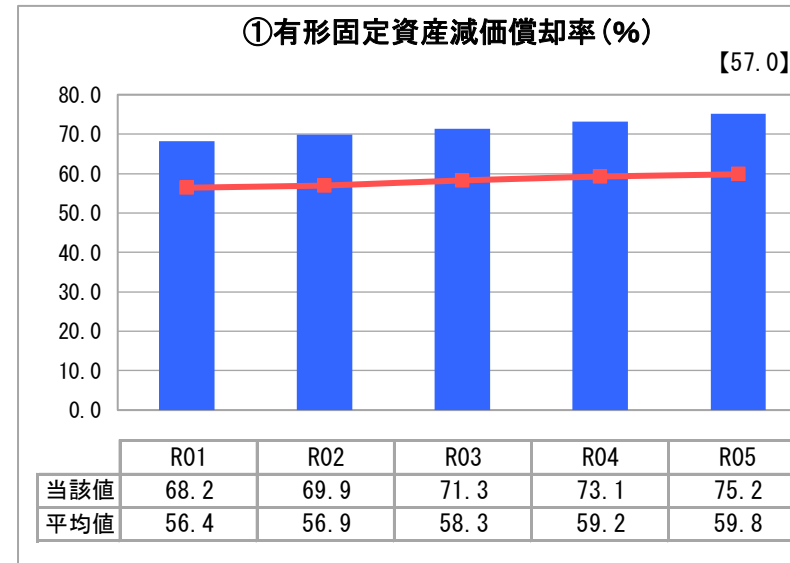
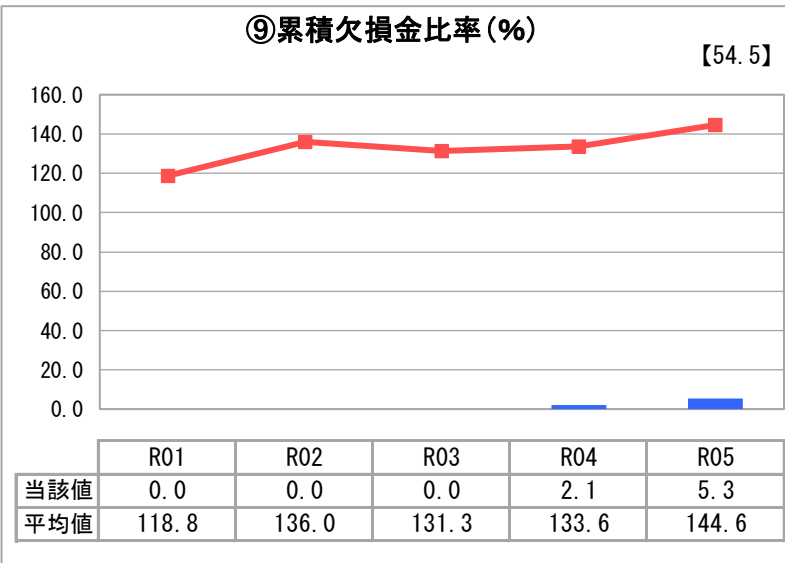
全体総括

一部診療科の縮小により、外来収益の減少で医業収入が伸び悩むとともに物価高騰等経費が増加し赤字となった。現状ではへき地医療拠点病院としての役割である地域医療を担うことは果たせている。今後の経営形態の見直しについて、必要性・緊急性は低いが医業収益増額と医業費用の減額には取り組まなければならない。また、施設の老朽化や地域の人口減少による収入の減少が見込まれることから、地域ケア病床の増床や療養病床の在り方など含め検討を進めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。